

気候危機と水害：ダムで暮らしは守れるか？ 第5回

この川にダムはいらない
～生きものの宝庫石木川と川原(こうばる)の暮らし～

石木川まもり隊 松本美智恵
2021.5.18

石木ダムとは？

長崎県と佐世保市の共同事業で
半世紀前に計画されましたが

未だに本体工事には至っていません

それは地元の根強い反対運動が続いているから



建設費285億円、総貯水量548万 m^3 （完成すれば県内第3位）

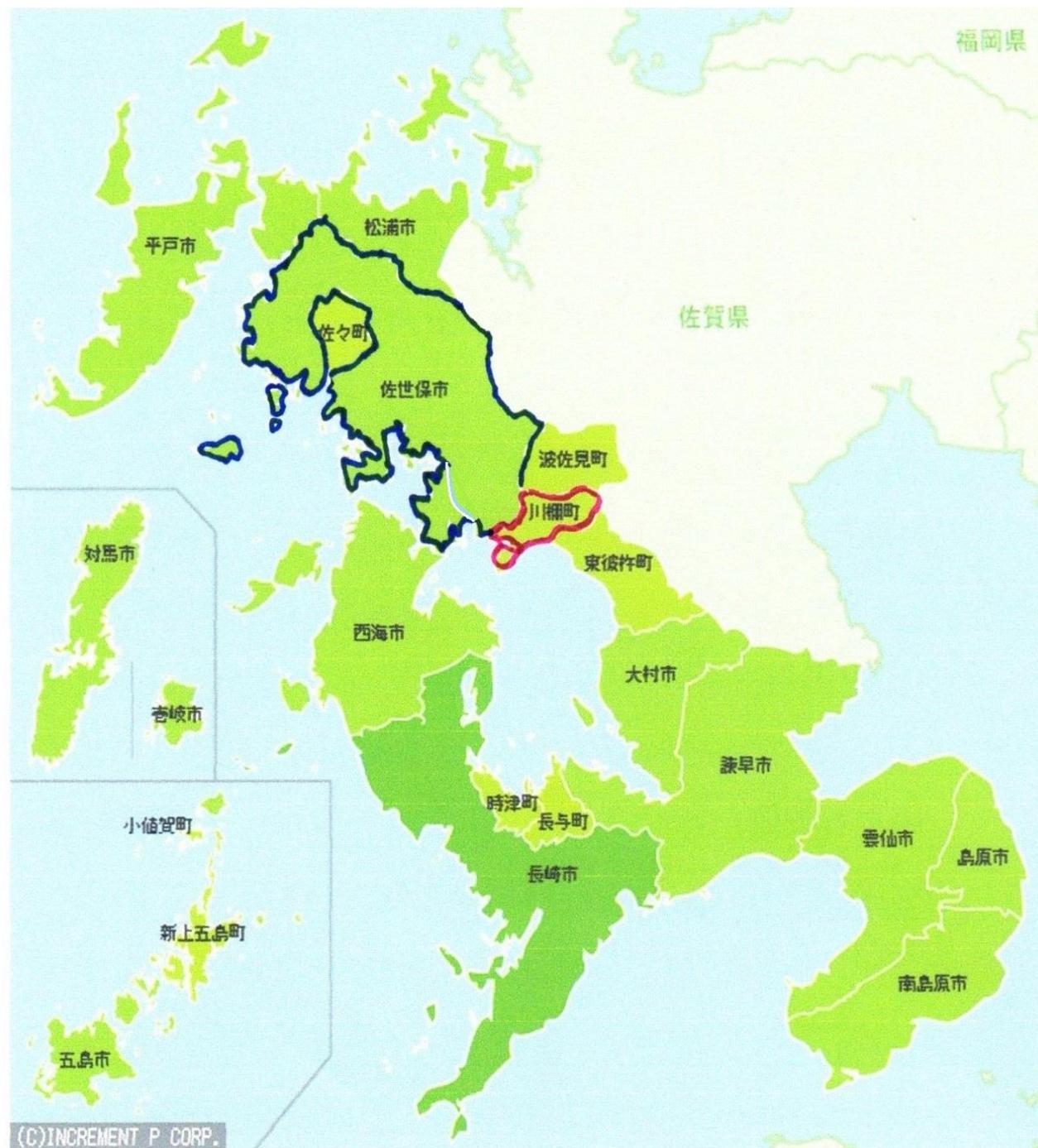


川辺川ダム
1億3300万 m^3

ハツ場ダム
1億750万 m^3

徳山ダム
6億6000万 m^3

- 主な目的
- ・ 川棚川の治水対策（洪水被害の軽減）
 - ・ 佐世保市の水道用水源確保



川棚川水系の概要

川棚川

- ・長さ 21.8km
- ・流域面積 81.4km²
- ・支川 12

石木川

- ・長さ=4.5km
- ・流域面積=11.9km²
- ・集水面積=9.3km²
(川棚川流域面積の11%)
- ・河口から約2kmで合流



川棚川の治水対策として
石木ダムは必要か？

長崎県の説明

県の広報誌
「つたえる県ながさき」
2018年10月号より

・川棚川は昭和20年以降
大雨により4回氾濫

・川棚川の改修が完了す
れば、過去の洪水と同等
の大雨には対応できる

・しかし、100年に一度の
大雨に対応するには石木
ダムが必要

川棚町の洪水被害(浸水戸数)

1948年	昭和23年9月洪水	2,000戸
1956年	昭和31年8月洪水	801戸
1967年	昭和42年7月洪水	128戸
1990年	平成 2年7月洪水	384戸

平成2年7月洪水被害の状況(川棚町)



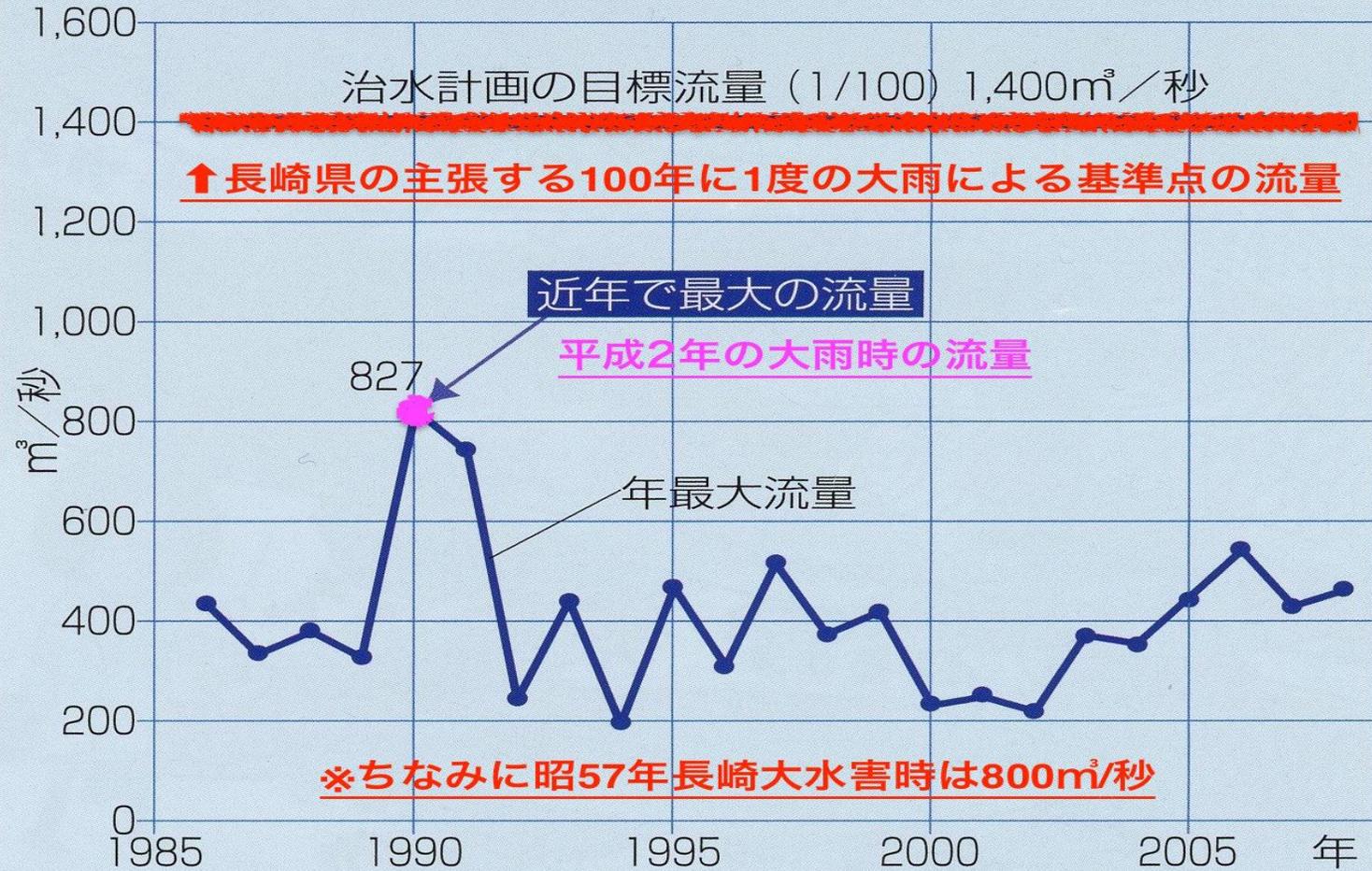
水位が上昇し、道路にあふれる(川棚川)



冠水した道路(川棚駅周辺)

長崎県「100年に1度の大雨」に備えて 石木ダムが必要と主張

図2 ■川棚川・山道橋の実績洪水流量と計画洪水流量



出典：長崎県土木部河川課の資料。1990年の実績は中田橋の観測値からの推定。

平成2年の洪水被害



多くは内水氾濫

被害区域は低地で市街地(コンクリート舗装)





宅地化が進んだ中組郷 パンフレット「石木ダム」(2009年3月長崎県発行)より

満水の状態で流れる川棚川 (H2.7.2 岩立から撮影)



宅地化が進んだ現在の状況。

H17. 7. 7撮影

★流域治水の常識(造らない)外れの町づくり
浸水地域に建物や施設を

長崎県は
石木ダムの為の治水ではなく
県民の命と財産を守る
真の治水を目指してほしい

定量治水 → 非定量治水、流域治水

堤防の嵩上げ・強化、河道掘削、
田んぼダムなど

石木川は生きものの宝庫

守りたい！生物多様性









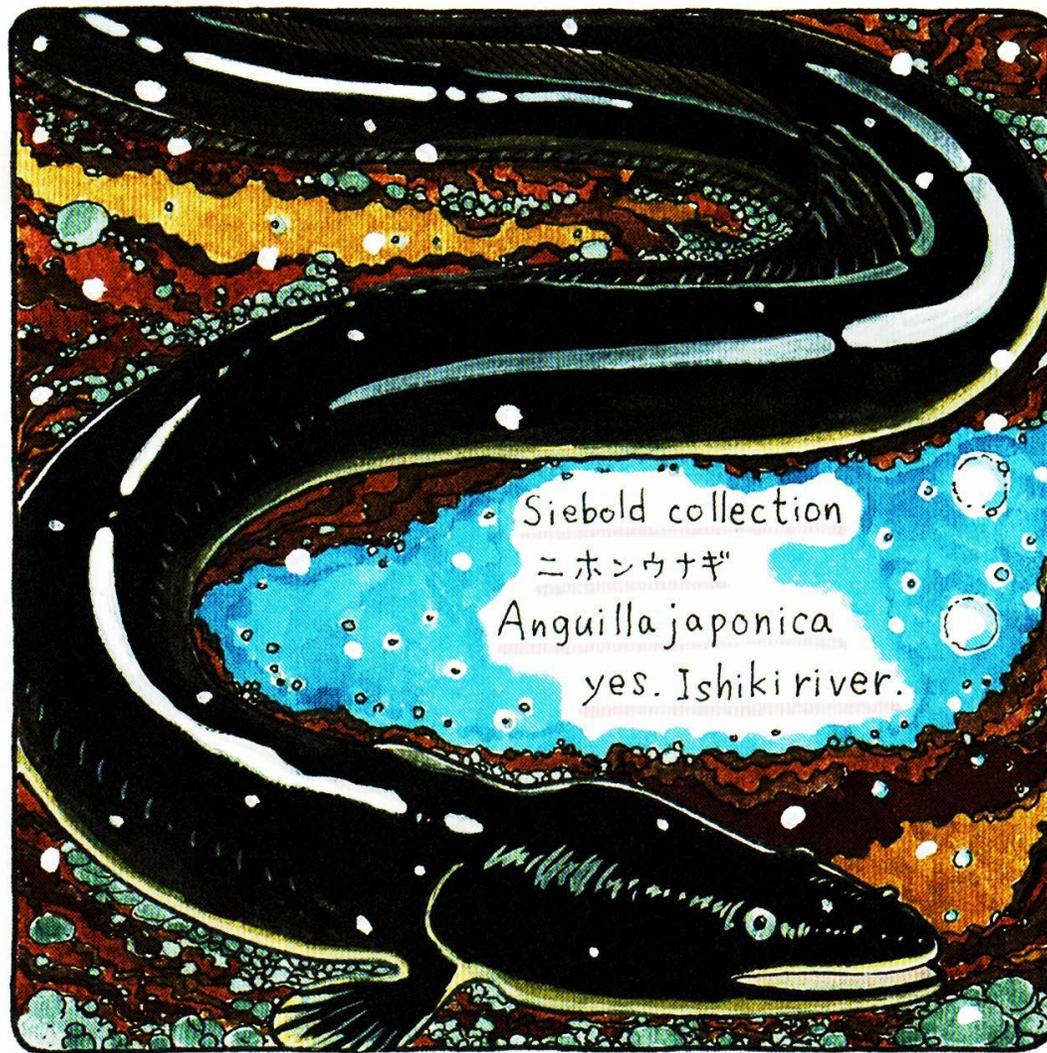


イラスト：いしまるほずみ（こうばる住民）



いしまるほす"み画

カマツカ
シーボルトコレクション
レッドリスト
長崎県2011 NT(準絶滅危惧)



Siebold collection
ニホンウナギ
Anguilla japonica
yes. Ishiki river.

いしまる はずみ 画

ニホンウナギ
シーボルトコレクション
レッドリスト環境省2018 VU (絶滅危惧種II類)



Siebold collection

ドンコ

Odontobutis obscura
yes. Ishiki river.

いしまる はずみ画

ドンコ
シーボルトコレクション



いしまるほす"み画

ヤマトシマドジョウ
シーボルトコレクション
レッドリスト環境省2018 VU (絶滅危惧II類)



石木ダム事業とと川辺川ダム事業のアセス報告書にみる生物相の比較

		石木ダム事業			川辺川ダム事業		
流域面積		11.8km ²			470km ²		
湛水面積		34ha			391ha		
		科	種	重要な種	科	種	重要な種
1	陸上植物	148	810	56	155	1304	147
2	哺乳類	9	19	3	14	32	12
3	鳥類	39	120	32	45	136	23
4	爬虫類・両生類	5	10	6	11	26	3
5	魚類	32	64	3	11	28	5
6	底生動物	156	280	10	62	214	0
7	陸上昆虫	33	124	28	294	3026	22







モチ (あんあんなし) 300円 (4人入)
よもぎもち (あん) 300円 (4人入)
ほたる団子 150円 (2人入)



COOL TOP TARP

石木川まもり隊

UV







石木川にダムができると

- 石木川の**生物多様性が損なわれる**だけでなく
- 川棚川の**流量が減少し**
(佐世保市への導水量: 最大20, 000m³→55, 000m³)
- 大村湾の水質や**生態系への影響**が懸念される

治水効果は小さく

環境への影響は大きい石木ダム

最大の目的は利水？

佐世保市の水不足はそれほど深刻なのか？







佐世保市の主張

現在安定水源量は**77,000m³**しかない

将来必要となる水源水量は**117,000m³**であり、**40,000m³**が不足する

それを補うのは石木ダムしかない

将来必要となる水源水量は本当に117,000 m^3 にもなるのか？

過去20年間で一日最大給水量は、約3万 m^3 (27%)も減少

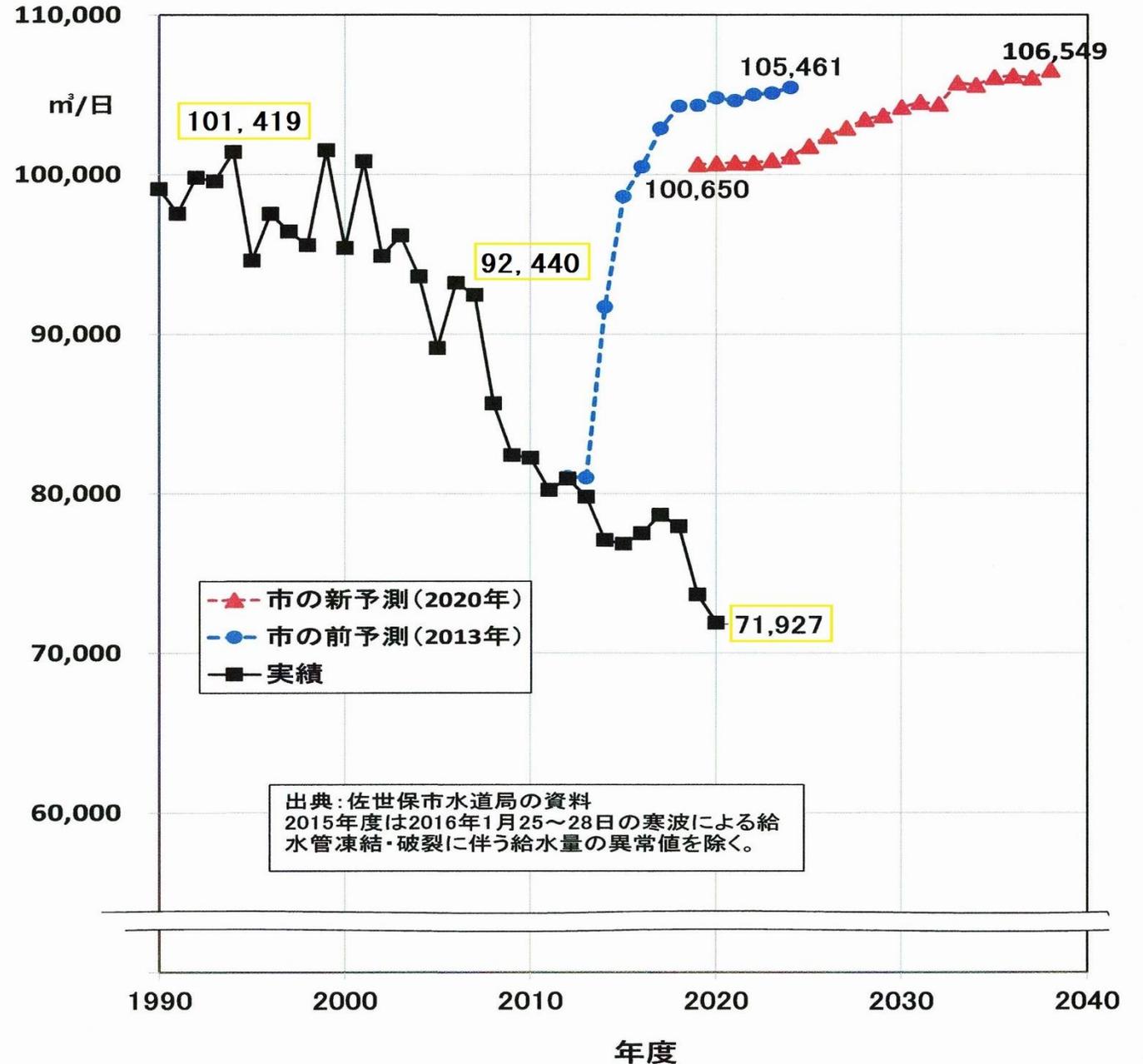
今後も、人口は減り続け
節水機器は普及する



水需要の増加は有り得ない

佐世保市水道の一日最大給水量の実績と市予測

(佐世保地区)

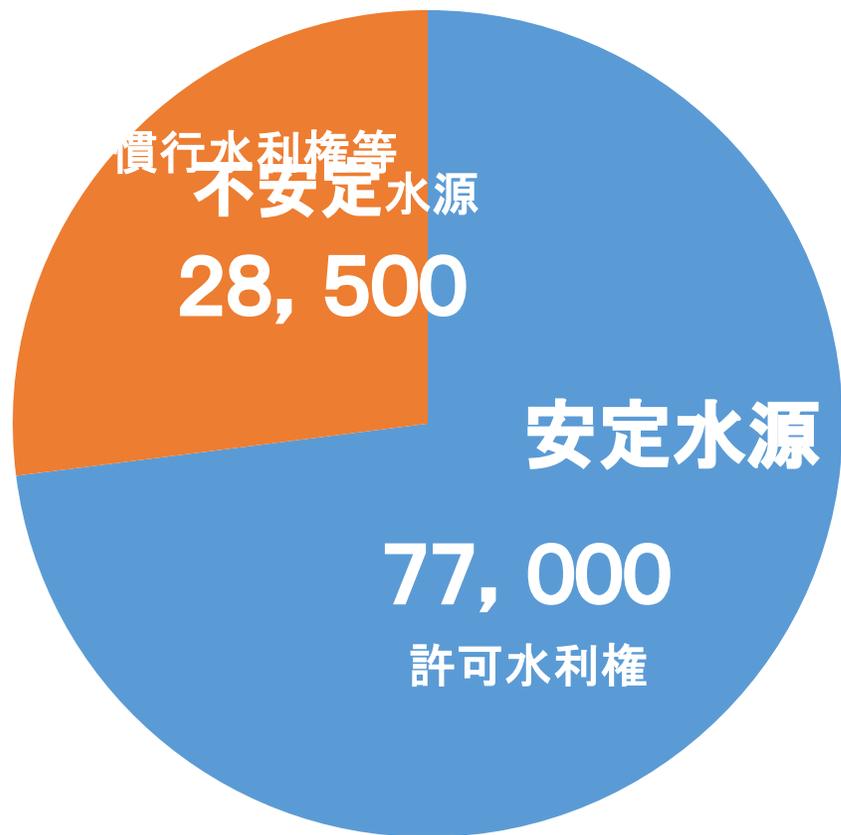


保有水源を過小評価している

＜ダム検証のあり方を問う科学者の会＞

慣行水利権水源を不安定として認めないが、毎日取水している

慣行水利権でも取水実績があれば保有水源と認めるべき



2007年度渇水時に不安定水源から
一日平均
21,000m³取水
↓
事実上の安定水源

77,000 + 21,000 = 98,000
実質的保有水源



佐世保の**実質的保有水源量** = **98,000m³ / 日**

一方、現在の**最大給水量** = **72,000m³ / 日**
(将来はさらに減少が予想される)

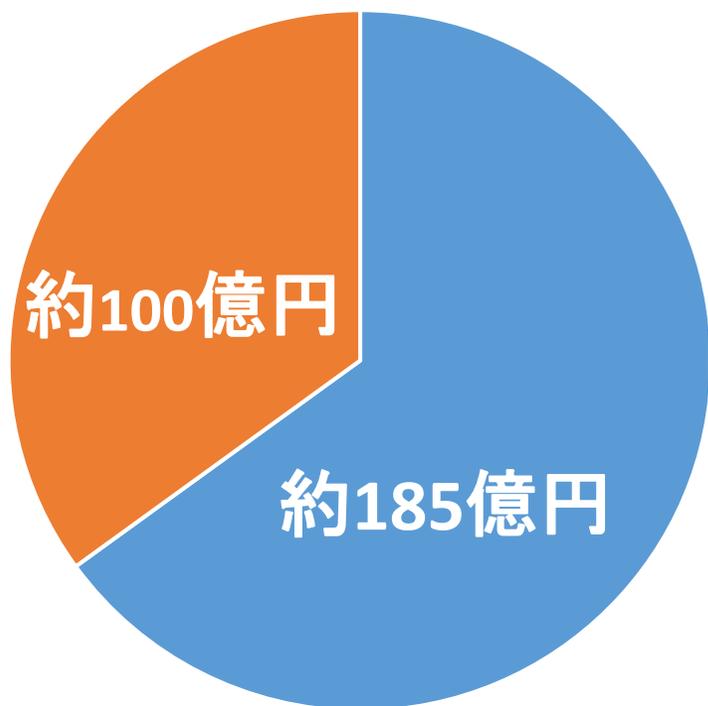


佐世保の水は足りている = 石木ダムは不要！

石木ダムの事業費は？

不要な石木ダム事業に要する費用＝285億＋253億＝538億円

石木ダム建設費＝285億円



■ 長崎県 65% ■ 佐世保市 35%

石木ダム関連事業費＝253億円
(水道施設設備費)



佐世保市100%

そこには・・・

- 長崎県への国庫補助金(国交省) = 93億円
- 佐世保市への国庫補助金(厚労省) = 82億円

(2018年9月佐世保市議会都市整備委員会資料より)

合計 175億円の補助金 = 国民の税金

皆さんも石木ダム事業費を負担している！

走り出したら止まらない公共事業

不要なダムのために

環境を傷つけ

税金を浪費し

そして

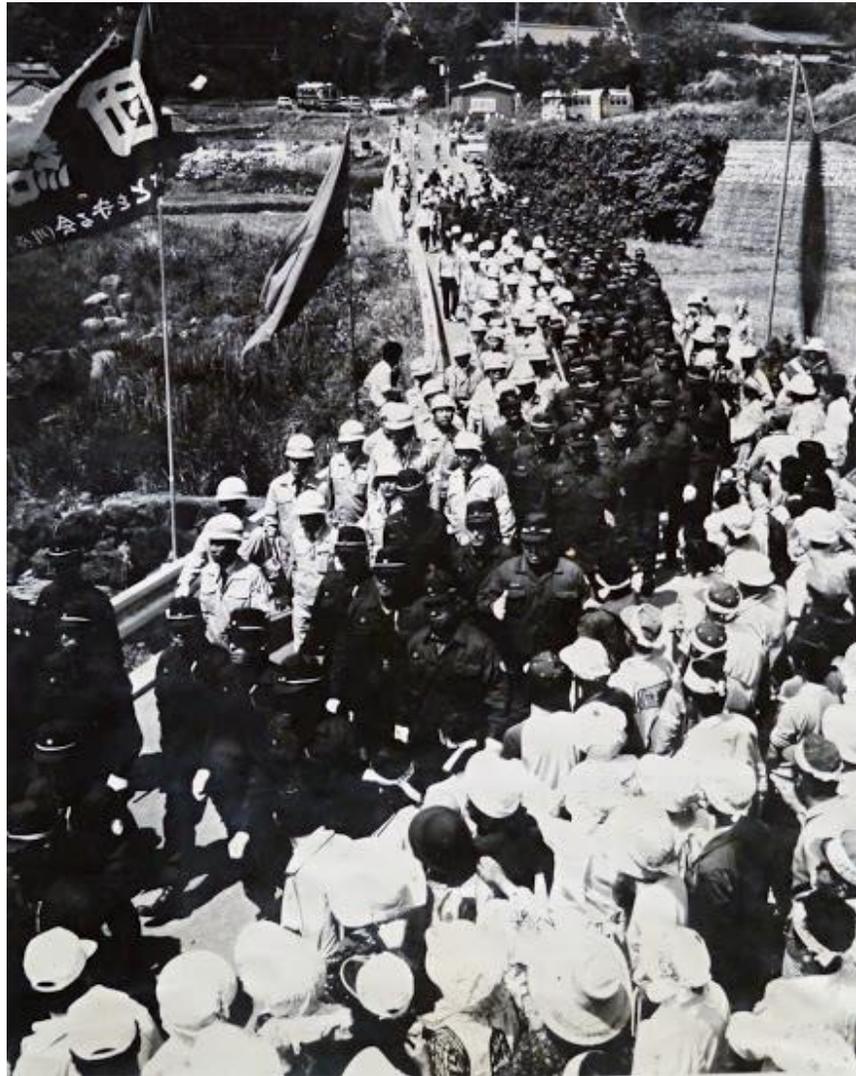
住民の暮らしを破壊しようとしている

強制収用への道

- 1975年 国,石木ダム事業採択
- 1982年 県,機動隊を導入し強制測量を実施
- 2009年11月 県,事業認定を申請
- 2013年 9月 国,事業認定を告示
- 2014年 9月 県,第1回収用裁決申請 (4世帯の農地) →2015年8月強制収用
- 2015年 7月 県,第2回収用裁決申請 (4世帯の家屋と宅地と農地)
- 2016年 5月 県,第3回収用裁決申請 (9世帯の家屋と宅地農地山林)
- 2019年 9月 県,全ての土地家屋を強制収用→11/18明渡期限

現在まで誰1人出て行かず、これまで通りこうばるに住み続け
田畑を耕し、会社や学校へ行き、
石木ダム反対の座り込みを続けている

1982年 5月 県,機動隊を導入し(7日間に750名)強制測量



女性たちの手には数珠。子どもたちは学校を休んで家族と共に抵抗。







石木ダム」の強制収用は許さない!

私に近寄らないで!
セクハラ
やめて下さい!

県職員は
セクハラ
やめて下さい!

工事強行

県有地につき

県職員
セクハラ
やめて下さい!

当該フェンス門扉等
工事途中の歩行
車両の通行を
禁止した上世









【憲法】

第13条：幸福追求の権利は、公共の福祉に反しない限り最大の尊重を必要とする

第22条：公共の福祉に反しない限り、居住、移転及び職業選択の自由を有する

第29条：財産権は侵してはならない
私有財産は補償の下に、これを公共のために用いることができる

第12条：憲法が保障する自由及び権利は、国民の不断の努力によって保持しなければならない

